



ともしび

— TO MO SI BI — 第258号

2017(平成29)年10月号

和顔愛語

秋のお彼岸も過ぎ、これからは秋が深まってまいります。食欲の秋・スポーツの秋・読書の秋などと言われていますが、皆さまは何の秋でしょうか？私は、なんといっても食欲の秋です。秋の味覚を頂きながらの晩酌は最高ですね。

また日本を代表する秋の味覚として、サンマがあります。しかし、今年は今までにない不漁ということ、値段も高くなっています。焼きサンマが好物の私としては、食べられないのは残念ですが、今年は諦めることになるでしょう。

さて、冒頭の言葉は「和顔愛語（わげんあいご）」と読みます。これは、「仏説無量寿経」というお経の中に出てくるお言葉です。「和顔」は、優しく穏やかな顔つきのことで、「愛語」は、慈愛に満ちた優しい言葉を意味します。阿弥陀さまがおさとりを開かれる前、法蔵菩薩として修行に励まれていた時のお姿のひとつです。

皆さまは、人に対して穏やかな顔で優しい言葉で接することができているでしょうか？ 仏教徒として、和顔愛語は実践目標の一つです。誰に対しても、このように接することができると、大変羨ましい限りです。恥ずかしながら、私自身を振り返ってみると、身近な家族にさえ和顔愛語が実践できていないように思います。

先日、家族で夕食を頂いている時、ふと長女に目を向けると膝を立てて食べていました。そこで、一回目は「行儀が悪いからやめようね。」と優しく注意しました。そうすると、椅子に座り直して食べ始めました。そして、しばらくするとまた膝を立てていたので、今度は少し強めに注意しました。もしやまた同じことをするのはないか、と思いきやにしばらくすると、予想通り膝を立てたのです。仏の顔も何とやら：これには流石に腹が立ち、厳しく叱りつけました。すると、怒られたことで長女は泣き始めてしまいました。少々きつく言いすぎたかなとも思いましたが、後には引けず気まずい空気が流れることになったのです。

家族に対する時だけでなく、私たちは自分の都合によって相手に対し、いい顔をしてみたりそうでなかったりする姿があります。

仏教でいう「布施」は三つあり、①財施（さいせ）：お金や食物などを施すこと、②法施（ほうせ）：仏さまの教えを説くこと、③無畏施（むいせ）：恐怖心を取り除くこととあります。そして、日常生活のなかで誰もが実践できる布施として「無財の七施（むざいのしちせ）」という言葉があります。そして、この無財の七施のなかには、和顔施（わげんせ）や言辞施（ごんじせ）など、和顔愛語と同じ意味を持つ施しがあります。和やかな微笑みのある顔で接し、思いやりのこもった優しい言葉をかけること。簡単なようで、意外と難しいものです。

笑顔ひとつで救われる時もあれば、言葉一つで相手を傷つけることもあります。和顔愛語というお言葉の大切さを、改めて考えさせられることです。



仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. 仏壇は家族が亡くなって

から必要？

A. 家族の生死に左右されず、

家ごとに仏壇を安置する

お仏壇とは、字のごとく、仏さまがいらつしやる壇のことです。仏さまとは、浄土真宗の場合、特に断りがなければ阿弥陀仏をさします。つまり、阿弥陀という真理・真実を表す仏さまがおられる場がお仏壇というわけです。よく勘違いをされるのは、「家族の

誰かが亡くなって初めてお仏壇が必要になる」と思われることです。しかし、真実を仰ぐのは生きている私たちです。いろいろな悩み事を抱え、悲しみや怒りに心乱す私たちに、真実の安らぎを与えようとされているのが仏さまです。その仏さまに、「私」が出遇うの場がお仏壇です。

もちろん、お仏壇を通して亡き人に遇うこともできます。現に、「家族の

死」という悲しみを縁としてお仏壇を求められる方が多いのも事実でしょう。しかし、だからと言って、お仏壇は「亡き人が入られるところ」と決めてしまつと、本来の意味がわからなくなる恐れがあります。

お仏壇は、実体として亡き人が「入るところ」ではなくて、亡き人の「尊さや真実心に触れるところ」と言えばよいでしょうか。また、亡き人の「願いを聞く場」でもありますし、「仏となつてつねに私を見守つてくださる亡き人の心に出遇う場」でもあります。つまり、亡き人も私も、ともに仏さまに包まれ、心の温もりを味わわせていただく場がお仏壇なのです。

ですから、亡き人を偲ぼうとする方も、家族の皆が心通わすことが大切だと思われた方も、一人住まいの方も、長男であろうが、末っ子であろうが、人間、どんなスタイルであっても、生きる依りどころとなつてくださる仏さまをお迎えするために、まずはお仏壇を自分たちの生活空間に置いてください。

新・仏事のイロハ』より抜粋

お知らせ

公開講座 開催

日時 11月3日(金) 13時半より

テーマ 落語で学ぶ相続・遺言・後見

会場 東久留米会館 本堂

参加費 無料



どこの家庭でも起こりうる相続問題を、行政士・ころ亭久茶氏が、落語風に面白く解説します。

平成29年の年回表

(ご法要のお申し込みをお忘れなく)

平成29年 年回表	
1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
23回忌	平成7年
25回忌	平成5年
27回忌	平成3年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年

9月行事の様子

★境内清掃 9月9日(土) 9時～11時

残暑のなか、14名の方にお手伝いいただき、境内の草取りを行いました。
草刈り機や手作業で雑草はほとんどなくなり、きれいな境内になりました。

細かい所は手作業で草取り



広い所は機械で除草



おまけ



子ども達も一所懸命？
草取りをしました。

北川 康雄様 大嶋 弘様 菅野 ヨシコ様 田口 康子様 西 ユリ子様 大嶋 貢子様
高田 テルハ様 才野木 康雄様 加藤 吉長様 村井 保夫様 西久保 秀雄様 西久保 悦子様
飯島 悠様 あべりおん様
お手伝いいただき、有難うございました。

★秋季彼岸会法要 9月23日(土) 13時～15時

午前中の雨もお昼前にはあがり、29名の皆さまが参拝されました。
法要では正信偈をお勤めし、ご講師・毛利祥真師よりご法話をいただきました。

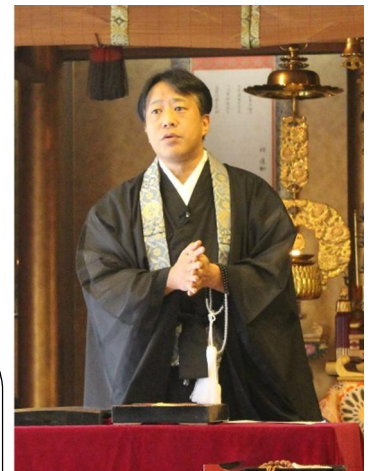
曇り空の外観



法要「正信念仏偈作法」



毛利 祥真師



9月の誕生日の皆さま



ご講師・毛利先生は、
主管と大学時代からの
同級生で、今では全国
で活躍される布教使で
す。今回は、お彼岸に
関わるお話をレジュ
メや絵を用いてお話
をいただきました。

(写真右上)

9月の誕生日の方は、
お一人様でした。これ
からも元気で参りく
ださい。(写真左)

お供物のおはぎ

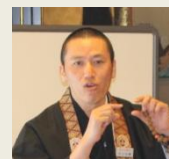


▶ 10月の行事予定

常例法座

ご講師 村上 弘樹師

(山梨県 真光寺)



10月15日(日) 午後1時～

どうぞ、お気軽にお参りください。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

10月16日(月) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

▶ 11月の行事予定

公開講座

ご講師 ころ亭久茶氏

テーマ 落語で学ぶ相続・遺言・後見

11月3日(金) 午後1時30分～

ご家族・お友達などお誘いいただき、
是非、ご参加ください。

おみがき・境内清掃

11月19日(日) 午前10時～

報恩講に向け、仏具のおみがき、
館内・境内の清掃を行います。
ご協力よろしくお願いいたします。

報恩講

**11月23日(木) 午前10時～
午後1時～**

ご講師 山崎 龍法師

(東京都 法善寺)

親鸞聖人の御命日にあたり、聖人の
ご遺徳を偲び、感謝する法要です。

発行日 2017年10月1日 第258号
発行者 安邊 泰教
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話番号 042-474-6787

東久留米会館会報 「ともしび」

編集後記

風呂場を修理することになり、2日間程、近所の銭湯に通うことになりました。大人は、家の風呂が使えないと不便に思いますが、子ども達は、広いお風呂に入れると大喜び。ただし長男は、まだおむつが取れていないので、残念ながら広いお風呂は未経験に終わりました。(安)

ありがとうございます。

菅野ヨシコ様 田口康子様
西ユリ子様 浅野由美様
渡辺タキ子様 村中秀行様
奥川真三様 熊谷武様
岸田禮子様
高田慶彦様(清酒)

今月のお仏飯米のご進納